

2005年4月18日
日立笠戸機械工業株式会社
日立笠戸エンジニアリング株式会社

日立笠戸機械工業と日立笠戸エンジニアリングが合併することで基本合意

株式会社日立製作所(以下、日立)の子会社である日立笠戸機械工業株式会社(社長:印藤 公夫/以下、KSK)と日立笠戸エンジニアリング株式会社(社長:市橋 一晃/以下、HIKEC)は、このたび、日立製作所電機グループ笠戸事業所(事業所長:岩滝 雅人/以下、日立笠戸事業所)の交通システム事業および産業システム事業のさらなる強化や、KSK と HIKEC のノウハウ共有によるシナジー効果の拡大などを目的に、合併することで基本合意しました。

合併は 2006 年 4 月 1 日を予定しており、合併後の新会社の名称や資本金など詳細は、今後両社で協議の上、決定します。

KSK は 1980 年に設立され、日立笠戸事業所の製造部門のサポート事業からスタートし、現在では、鉄道車両用部品を日立以外の車両メーカーにも販売しているほか、生花をドライ加工した「エバーフラワー」の製造・販売なども行なっています。

また、HIKEC は 1988 年に設立され、日立笠戸事業所のエンジニアリング部門のサポート事業や、ロジスティクスシステムをはじめとした情報システムエンジニアリング事業に取り組み、日立笠戸事業所の非破壊検査や社外検査エンジニアリング、さらに鉄道車両および産業プラント関連製品のアフターサービスへと事業を拡大してきました。

今回の合併により、新会社は、HIKEC が培ってきた鉄道車両および産業プラントのエンジニアリング力とアフターサービスのノウハウに、KSK が培ってきた鉄道車両、産業プラント、半導体製造装置など部品の製造ノウハウを融合することが可能になるほか、営業から開発、設計、製造、販売、サービス・保守までの一貫した体制となることを活かし、日立笠戸事業所の交通・産業システム事業へのサポート力を一層強化します。また、合併を契機に、新しい形態のサービス事業にも取り組む予定です。

具体的な取り組みとしては、モジュール化を図った鉄道車両用部品を設計込みで請け負う事業の拡大や、アフターサービスにおける一括メンテナンス事業の拡大など、製品メニューの充実を図っていきます。また、HIKEC の有する東京、関西、九州の営業拠点と KSK の営業ルートとの共有による営業力強化を図るほか、情報システムエンジニアリングおよびサービス力を活かした新しい分野での事業展開も加速させていきます。

KSKの概要

会 社 名:日立笠戸機械工業株式会社

事 業 内 容:鉄道車両、産業プラント、半導体製造装置等の組立、部品の製造・販売、
「エバーフラワー」の製造・販売

代 表 者:代表取締役 取締役社長 印藤 公夫

資 本 金:5,000 万円(日立 100%出資)

所 在 地:山口県下松市東豊井 794 番地

売 上 高:66 億円(2004 年 3 月期)

従 業 員 数:約 390 名(2005 年 3 月末現在)

ホームページ:<http://www.hitachi-ksk.co.jp/>

HIKECの概要

会 社 名:日立笠戸エンジニアリング株式会社

事 業 内 容:鉄道車両、産業プラントのエンジニアリング、アフターサービス、
エレクトロメカニクス製品のエンジニアリング、ソフトウェアの製作・販売

代 表 者:代表取締役 取締役社長 市橋 一晃

資 本 金:3 億 5,000 万円(日立 100%出資)

所 在 地:山口県下松市東豊井 794 番地

売 上 高:75 億円(2004 年 3 月期)

従 業 員 数:約 280 名(2005 年 3 月末現在)

ホームページ:<http://www.hikec.co.jp/>

日立笠戸事業所の概要

事 業 所 名:株式会社日立製作所電機グループ笠戸事業所

事 業 内 容:交通システム(鉄道車両)、産業システム(プラント)の開発・設計・製造

代 表 者:事業所長 岩滝 雅人

所 在 地:山口県下松市東豊井 794 番地

従 業 員 数:約 600 名(2005 年 3 月末現在)

以 上

このニュースリリース記載の情報(製品価格、製品仕様、サービスの内容、発売日、お問い合わせ先、URL 等)は、発表日現在の情報です。予告なしに変更され、検索日と情報が異なる可能性もありますので、あらかじめご了承ください。
